



# 夢に向かって!

## 自分との関わりで考える道德科の授業

— 子どもの実態に基づいた発問を通して —

名古屋市道德研究会 授業づくり研究部会 部長

名古屋市立八社小学校 土屋 俊貴

☆授業づくり研究部会が大切にしたいと考えた授業づくりのポイント

○授業で扱う道徳的な価値に対して様々な見方をする!

“自分にとって” “相手にとって” “クラスにとって” どのような価値がある?

○子どもたちがその価値についてどう捉えているか、実態把握をする!

授業前のアンケート「こんなとき、あなたならどうする?」

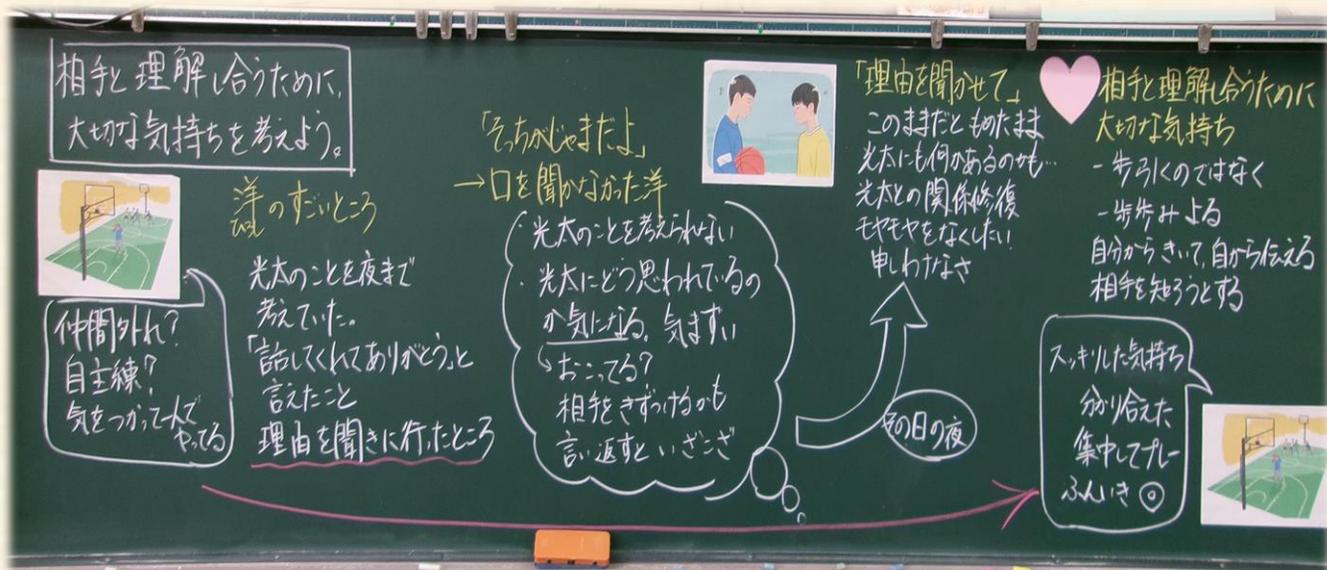
### 実践紹介：第6学年「昼休みのコートで」(B 相互理解、寛容)

(ねらい) 相手の立場に立って考え、互いに尊重し合ってよりよい関係を築こうとする態度を育てる。

(授業者の思い)

子どもが“自分との関わり”で考えられるようにするために

- ・ 相手と理解し合うために行動することの難しさに気付かせる。
- ・ 相手を理解するために大切な気持ちを考えさせる。



児童からは、

- ・ 相手と理解し合うことは簡単ではないし、時にはぶつかることもあるかもしれないけど、お互いが納得できるように、考えを伝えたり、聞いたりすることが大切だと思った。
- ・ 理解し合うために相手に一步步み寄れる人になりたい。

といった感想が聞こえてきました。

紙面では紹介しきれなかった実践の詳細や他学年の実践については、

**令和7年1月29日(水) 14時45分～(名古屋市教育館1・2・3研)**

の研究発表会にてお伝えします。奮ってご参加ください。

また、令和7年1月10日(金)、2月14日(金)の18時半より教育館にて学習会を行います。関心をもたれた方は、千種区上野小 伊藤みずき (IP71-2107) までご連絡ください。